

第3学年 総合的な学習の時間 指導案

日 時：令和4年10月3日（月）5校時

対 象：3年3組 24名

1 単元名 「南長崎の町自慢について調べよう」

2 単元について

（1）単元の目標

- 地域の特色であるトキワ荘について調べ、再建・保存してきた人々の努力や苦勞を知り、地域の一人として受け継いでいく気持ちを育てることができる。
- 見学や体験活動を通して、漫画家たちの気持ちや生き方に触れ、その思いや願いに気付くことができる。

（2）単元の評価規準

観 点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	◇課題解決のために、インターネットや見学などの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりしている。	◇南長崎の町の良さや特色について、学習課題や学習計画を考え表現している。	◇南長崎の町の良さや特色に関心をもち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追究・解決しようとしている。
	◇南長崎の地域にはトキワ荘があり、良さや特色があることを理解している。	◇調べたことをもとに、南長崎の町の良さや特色と自分たちの生活とを関連付けて考え、良さや特色について自分の考えを適切に表現している。	◇トキワ荘を調べることを通して、地域との関わりを深め、地域の一人としての自覚をもとうとしている。

（3）単元の設定理由

本単元は、南長崎の地域（生活圏）にしかない素敵な場所について主体的に調べ、地域の良さや、地域の人の思いに気付く、地域の一人としての思いを深めることをねらいとしている。

本地域は、世界的に有名な漫画家が若い頃共に漫画の創作活動をした「トキワ荘」がある町で、地域の良さや特色を学ぶには十分な地域と言える。地域の特色であるトキワ荘について改めて考えることをきっかけに、地域の一人としての自覚を養いたい。

また、初めての「総合的な学習の時間」となる3年生にとって、自分たちの身近な地域を扱うことで、学習課題の設定、探究、整理分析、まとめ、発表という探究プロセスを親しみながら学ぶことができる。そして、この経験が、今後4年間の主体的な学びや問題解決力の素地として役立つと考える。

3 児童の実態

本学級の児童は、1・2年生の生活科の学習において、地域の様々な場所、自然と関わる体験を通して、南長崎の地域への愛着や理解を深めてきた。3年生になり、社会科「学校のまわりの様子」では、生活体験をもとに話し合いをし、サンシャイン60展望台への社会科見学を通して、土地の高低や建物の様子など、地域の情報についておおまかに捉えることができています。しかし、どのようなところであるのかをあいまいに捉えていたり、初めて知ったりする場所も多く、地域の特色について気付いている児童は少ない。

そこで、南長崎の町自慢を見付けて、地域をよく知らない人に紹介しようというめあてを立て、探究していく活動を通して、地域資源を見つめ直し、自分たちの住む地域への理解を深め、地域の一員としての自覚を養う機会としたい。また、学習課題の設定、探究、整理分析、まとめ、発表という総合的な学習の時間の探究プロセスを丁寧に学ばせることで、主体的な学びや問題解決力の素地を身に付けさせたい。

4 授業づくりの工夫（ICTの活用）

（1）カメラ機能の活用（クロームブックカメラ機能）

トキワ荘マンガミュージアムで画像を撮影し、新聞作成に画像を使用する。撮影した画像の中から、児童が記事に合うものを選択し、拡大や縮小、トリミングなどの加工をして、活用することができる。

（2）コラボノートで思考ツールの活用

情報を収集、比較、分類、整理し、自分の考えを表現する。話し合いに関しては、活性化しやすい、スムーズに進む、考えを広げやすい、などの効果が挙げられる。思考ツールで思考を可視化することで情報を共有がしやすいと考えられる。また、思考ツールを活用することで、考えの理解を促したり、何度も使うことで共通点や相違点に気づきやすくなったりする。

（3）振り返りの共有（Google フォーム）

学習を通して考えたことを Google フォームで入力させ、集約する。自由記述での振り返りでは、友達の考えを読んで、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、教師が注目させたい考えや深めたい考えを取り上げて、学級全体で話し合うことができる。また、選択式の場合には、選択させることで回答しやすい点と、回答を視覚的にとらえやすい点で有効である。

（4）コラボノートを使用した新聞の制作

写真や絵と文字を組み合わせる簡単な新聞を作成し、調べたことや考えたことを発表する。見出しの大きさや位置、記事の段数など、新聞全体のレイアウトや文字の字体、大きさ、色が自由に設定できるため、児童が手軽に工夫して新聞を作ることができる。

（5）オンライン交流

宮城県登米市立石森小学校にトキワ荘の魅力や石ノ森章太郎先生、他の漫画家のことなどを特集した内容を伝える。石森小学校とは、以前から椎名町小と交流があり、5年生の田んぼの学習でお世話になっていた。今回は石ノ森章太郎先生の故郷であり、「石ノ森章太郎ふるさと記念館」の最寄りでもあることから、オンラインで、トキワ荘の魅力を伝えることを目的とした交流を行う。オンラインにより距離に関係なく、コミュニケーションを図ることができる。

(6) 「椎小情報発信ルール」の作成と活用

本時では、インターネットで情報を発信するときに大事なことを考えさせ、発信者には責任があることを理解させる。「椎小情報発信ルール」は、総合的な学習の時間に限らず、今後の様々な学習活動にも生かすことができると考える。

5 単元指導計画（25時間）

過程	時	○主な学習活動 ・留意点	◇評価規準【評価の観点】
① 課題 の 設 定	1	○南長崎の町の自慢は何かを考える。	・長期的な目標をもたせるために、地域に詳しくなることで、どんなことができるか、具体的に考えさせる。 ◇南長崎の地域には、トキワ荘があり、良さや特色があることを理解している。 【知識・技能】
	2	・他の町にはない、南長崎の町の自慢は何かを考えさせ、トキワ荘に注目させる。	
	3	○南長崎にしかない特色を考える。 ・世界的な漫画家が若いころ共に漫画の創作活動をしたトキワ荘があった町という特色に気付かせる。	
	4	○トキワ荘について知っていることをまとめる。	
	5	・手塚治虫、石ノ森章太郎などの作家名や作品名やそれにまつわるエピソードなどを調べ、伝え合う。	
② 情 報 の 収 集	6	○手塚治虫氏の作品に触れる。	・知識が豊富な児童と初めて知る児童の差が著しいため、作品の漫画などを用意して紹介していく。 ・それぞれ作品の良さを考えさせる。 ・作品の良さを発表させる。 ◇南長崎の町の良さや特色に関心をもち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追究・解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	7	・ジャングル大帝レオを視聴する。	
	8	・ディズニーアニメ「ライオンキング」に影響を与えたことを知る。ストーリー漫画の神様であることを知る。	
	9	○藤子不二雄作品、石ノ森章太郎作品、赤塚不二夫作品に触れる。	
	10	・作品の良さを発表させる。	
	11	・石ノ森章太郎物語を視聴する。	
	12	○トキワ荘には、どんな魅力があるのか考える。	
	13	○コラボノートで新聞を作成し、公開するにあたり、情報発信するときに大事なことを考える。	
	14	○トキワ荘には、どんな魅力があるのか考える。	
	14	○コラボノートで新聞を作成し、公開するにあたり、情報発信するときに大事なことを考える。	
③ 整 理 ・ 分 析			◇調べたことをもとに、南長崎の町の良さや特色と自分たちの生活とを関連付けて考え、良さや特色について自分の考えを適切に表現している。 【思考・判断・表現】
	本時		

	15	○コラボノートを使ってトキワ荘の新聞を作ることを共有し、どんな項目が必要か考える。	
	16	○トキワ荘マンガミュージアムを見学する。	◇トキワ荘を調べることで、地域の関わりを深め、地域の一員としての自覚をもとうとしている。
	17	・トキワ荘を見学し、地域の方の話を聞く。	【主体的に学習に取り組む態度】
	18	○見学したことを共有する。	
	19	・漫画家たちは、どんな夢をもち、漫画を描いていたのかを調べ、考える。	
③ まとめ・表現	20	○今まで、調べたり考えたりしたことを新聞にまとめ、公開する。	◇課題解決のために、インターネットや見学などの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりしている。【知識・技能】
	22	・「椎小情報発信ルール」を確認する。	
	23	・発表する課題や内容を話し合って決める。個々の考えを発表し、共有する。	
		・共有したものを参考に個々に課題を決める。	
	24	○新聞を発表する。（石森小学校との交流）	
	25	○これまでの学習を振り返る。	◇南長崎の町の良さや特色に関心をもち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追及・解決しようとしている。
			【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の学習（14／25時間）

（1）ねらい

- インターネットで情報を発信するときに、発信者に責任があることを理解し、正確な情報、相手を傷付けていないか、個人情報など、様々な点に留意する必要があることに気付くことができる。
- トキワ荘の新聞を公開するにあたり大事なことを考え、情報発信のルールを考えることができる。

（2）展開 場所：3年3組（教室）

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価基準【評価の観点】	ICTの活用と 教師の意図
導入	1 本時のめあてを確認する。	○情報を発信するときに大事なことに気付かせるため、あえて間違った新聞を提示し、気付きを促す。	【一斉】大型モニター ・学習課題をつかませるために提示する。
	2 間違った新聞を見て、良くない例を知る。	○情報を発信するときに気付いてほしいポイントを含めた、新聞の良くない例の分類を提示し、指導する。 ・正しい情報かどうか。 ・個人情報は大丈夫か。 ・相手を傷付けていないかどうか。	

「トキワ荘の魅力を伝えるために、大事なことを考えよう。」

展開	3 間違った新聞を見て、気付いたことを付箋に記入する。 (個人) ・コラボノートの思考ツールで付箋に記入する。 「個人の付箋」 C1. まんが家の名前がちがう。 C2. 年号がちがう。 C3. 写真がちがう。 C4. 電話番号がのっている。 C5. トキワ荘と関係ないマンガの話をしている。 4 付箋を仕分ける。 ・少人数（3～4人）のグループに対して、出てきた意見を分類する。 「正しい情報かどうか。」 C6. まんが家の名前がちがう。 C7. 年号がちがう。 C8. 写真がちがう。 「個人情報は大丈夫か。」 C9. 電話番号がのっている。 「相手を傷付けていないかどうか。」 C10. トキワ荘と関係ないマンガの話をしている。 5 各グループで大事だと思った意見を発表する。	◇インターネットで情報を発信するときに、発信者に責任があることを理解し、正確な情報、相手を傷付けていないか、個人情報など様々な点に留意する必要があることに気付くことができる。 【知識・技能】 ○机間指導し、思考ツールを効率よく使えているか確認し、支援する。 ○他のクラスから出された意見も合わせて「椎小の情報発信ルール」を作り、活用することを伝える。	【個別】コラボノート ・コラボノートのY字思考ツールを使って自分の意見を付箋に記入できるようにする。 【協働（グループ）] コラボノート ・コラボノートのY字思考ツールを使ってグループごとに話し合いながら意見をまとめられるようにする。
まとめ	6 本時の学習を振り返る。 ・Google フォームを使って学習を振り返る。	○情報を発信する上で大事なことを振り返らせ、気付いたことや考えたことをGoogle フォームに入力させる。 ◇トキワ荘の新聞を公開するにあたり、大事なことを考え、情報発信のルールを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	【個別→協働] Google フォーム ・学習の振り返りをGoogle フォームに入力させることにより、全体の理解度を視覚化する。

(3) 板書計画

10/3

め

トキワ荘のみ力を伝えるために大事なことを考えよう。

正しいじょうほうかどうか

こじんじょうほうは大じょうぶか

相手をきず付けていないか

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

(4) 大型モニター計画

①間違った新聞

②コラボノートの画面

③各班の画面

④Google フォーム